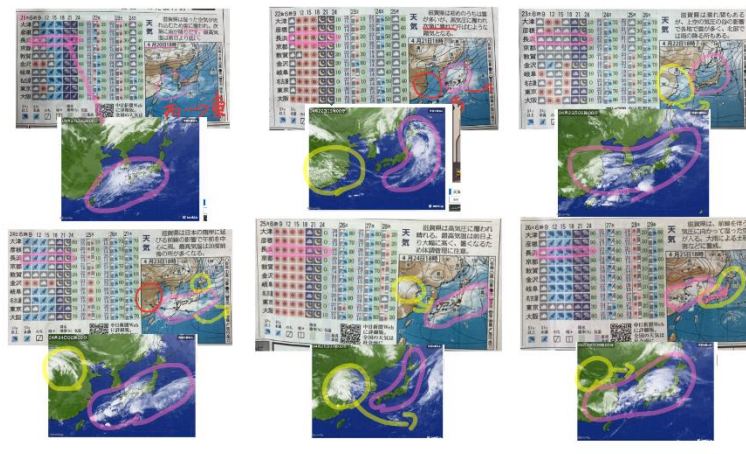


ロイロノートをフル活用!! 天気の予想を衛星画像から

昨年度は、新聞を1週間分集め、天気予報のコラムを切り抜き、並べて印刷し、プリントにしてノートに貼っていました。この作業も大切ではありますが、ロイロノートを使うとこのような使い方もできるということをご紹介します。

観察2 気象情報を集める



① 新聞をロイロノートで撮影し、テキストに日付順に並べます。

実際の新聞も児童に掲示します。

② web 検索で「天気」と検索し、tenki.jpの気象協会のページから衛星画像をスクリーンショットでカードにします。

(再生すると雲が動き、西から東へ動く様子がよくわかります!! 実際観察した後です。)

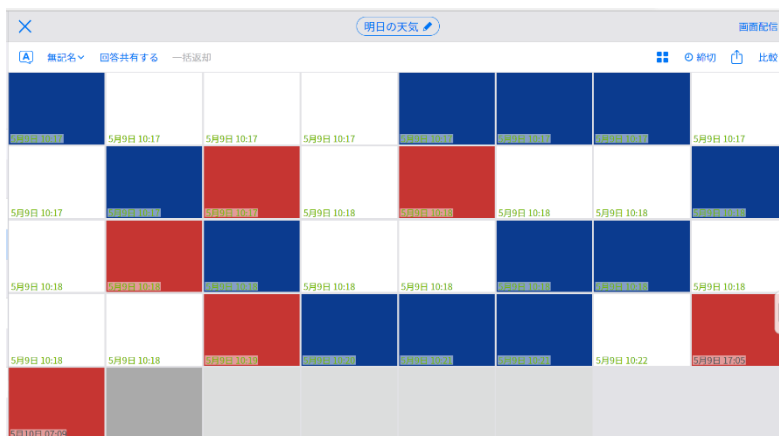
③ 新聞に合わせて衛星画像を並べ、天気予報と、実際の雲の様子を比べます。

④ ペンモードで直接雲のかたまりや、動き方を描いて、予想します。

カラーテキストのみを提出して、色で全員の予想を把握!!

雲の観察や、気象情報で雲の動きや、天気の予想の仕方を理解した後に、実際に明日の天気を予想する時間に進みます。そこでは、天気を予想したら、赤は晴れ☀️、白は曇り☁️、青は雨🌧️の色別に何も書かずにテキストのみを提出箱に入れます。

一覧を見ると、一目で誰がどの天気を予想したかや、学級全体の割合や人数がわかります。子どもたち自身も自分が予想した天気がどれくらいの人数であるかや、学級の予想と自分の予想とを見比べることができます。



この学級では、曇りと雨と予想した子が半々で、晴れると予想した子も少しいということが簡単にわかります。色のテキストのみを提出するだけで、意見を集めたり、人数把握をしたり、学級の傾向等がよく分かる大変便利な使い方だと思います。他教科でも、いろいろな場面でも使えますのでぜひ試してみてください。

酸素、窒素、二酸化炭素を集気びんに集めて

6年生は、「物を燃やすはたらきのある気体」を調べました。水中で酸素を集気びんに集め、ロウソクの火を入れると、普段より火が大きくなって、明るく燃えだしました。窒素や二酸化炭素では、ロウソクの火はすぐに消えてしまいました。



次回は、燃えた後の空気の成分について、気体検知管を使って数値で表す実験をします。